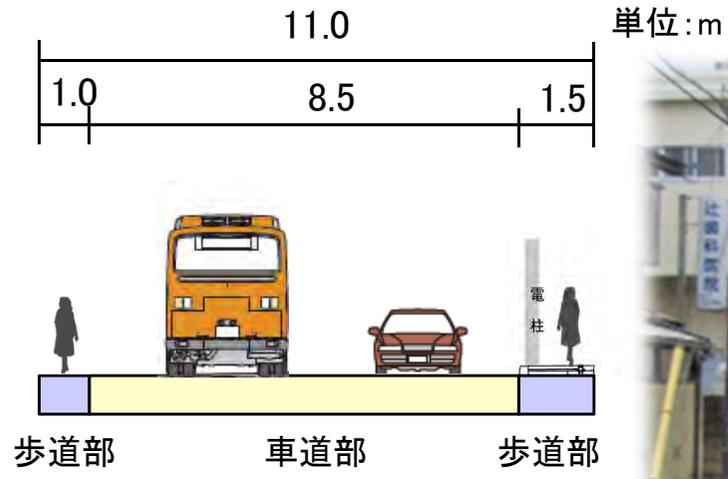


事業概要

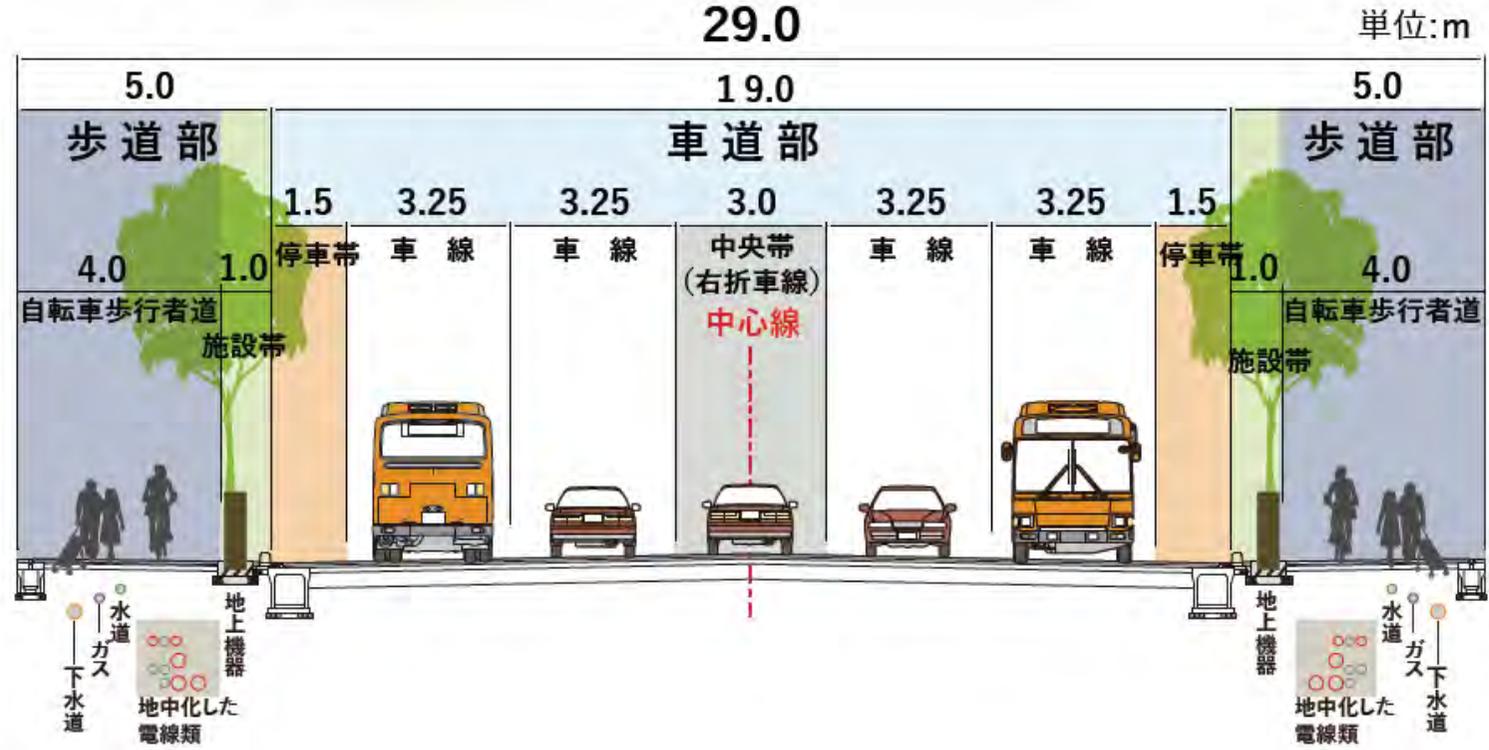
応募No.	16		
事業主体	島根県松江県土整備事務所	実施都市名	島根県松江市
応募者名	島根県土木部都市計画課		
ふりがな 事業名称	じょうざんきたこうえんせん としけいかくがいろじぎょう 城山北公園線 都市計画街路事業		
事業概要 (400字以内)	<p>都市計画道路城山北公園線は、松江市の市街地を東西に貫く主要な幹線道路であり、沿線には国宝松江城、県民会館、裁判所、赤十字病院、総合体育館など、重要な公共施設や民間施設が集積している。</p> <p>本事業は、安全で円滑な道路交通を確保し、中心市街地の活性化と都市機能の強化を図るため、歴史的な街並みの景観に配慮しながら、車道の4車線化、歩道の拡幅、電線類の地中化などを実施したものである。</p> <p>開通後は、市街地の渋滞が緩和したほか、安全性や快適性の向上により歩行者数が増加するなど、まちの賑わいの創出につながっている。</p> <p>事業実施にあたっては、まちづくりとの連携や合意形成を図るため、ワークショップやアンケートで地域の声を聞き、専門家を交えた「大手前通りみちづくり協議会」からの提言をもとに、まちと調和するデザイン、親しまれる道路空間づくり、歴史資源の活用を目指して、道路の具体的なデザインを決定した。</p>		
事業規模	事業延長	1047.5m	
	幅員	29m	
	事業期間	平成15年度～平成30年度	
	事業費	約130億円	

横断図

整備前
W=11m



整備後
W=29m



路線全体の進捗状況

都市計画道路 城山北公園線 総延長 L=1047.5m W=29m
今回応募区間 L=1047.5m H30年度完成



0 100m



事業前写真

平成18年11月撮影

(松江城側から撮影)



事業後写真

平成30年8月撮影

(松江城側から撮影)

事業前写真

事業後写真



- ◆ 市街地の渋滞緩和
- ◆ 周辺生活道路の生活環境及び交通安全の向上
- ◆ 良好な景観の創出
- ◆ 緊急輸送道路の確保



- ◆ 安全な歩行空間及び自転車通行空間の確保
- ◆ 中心市街地の活性化
- ◆ 都市機能の強化

平成14年11月撮影

平成30年8月撮影

事業効果アピール資料(1)



アンケート結果(抜粋)

- ・自動車で快適に通行できるようになった(79%)
- ・狭い抜け道を利用することがなくなった(18%)
- ・通勤通学時間帯においてもバスが定刻で運行できるようになった
- ・バス乗降や貨物集配の停車に起因する渋滞が解消した

市街地の渋滞緩和

- ◆ 4車線化により渋滞が緩和し、城山北公園線の旅行速度が28%増加した。
- ◆ 並行する生活道路の交通量が城山北公園線に転換し(-10%)、生活環境が向上した。
- ◆ 停車帯の整備により、渋滞が緩和するとともに集配業務が効率化した。

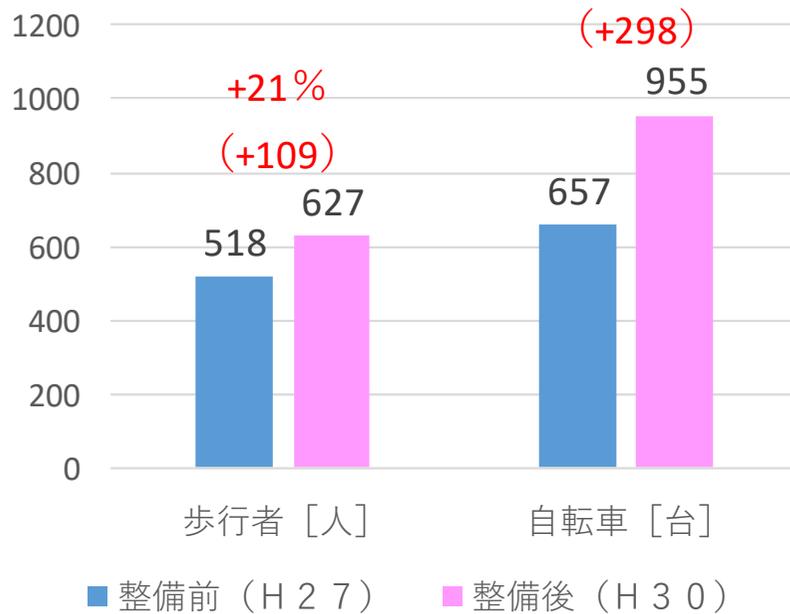


渋滞の緩和
(4車線化、停車帯の整備)

事業効果アピール資料(2)

歩行者・自転車通行量の変化

(12時間あたり) +45%

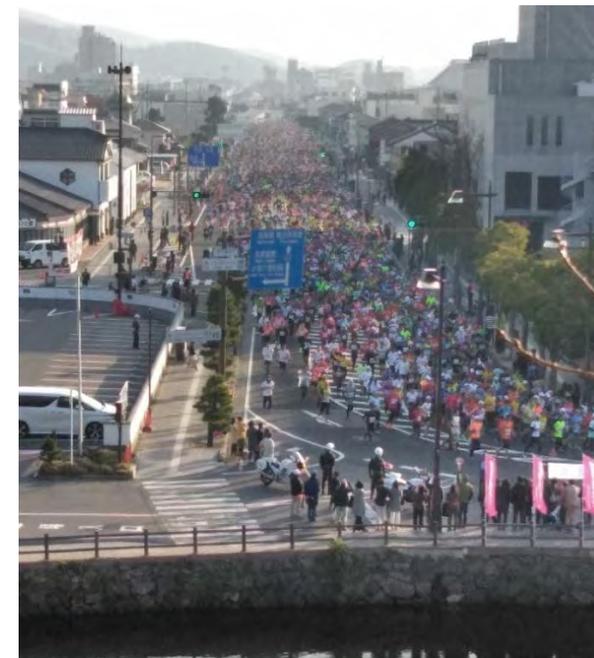


中心市街地の活性化

- ◆ 安全で快適な歩行空間の確保により回遊性が高まり、歩行者通行量が21%増加し、自転車通行量も45%増加した。
- ◆ 中心部に広い街路空間が整備されたため、イベントなどの様々なまちづくり活動での活用が期待されている。



安全で快適な歩行空間の確保
(幅員5.0m、自転車走行位置の明示)



イベントなどまちづくり活動での活用
(H30国宝松江城マラソン)

アンケート結果(抜粋)

- ・安心して歩けるようになった(87%)
- ・散歩や散策する機会が増えた(18%)
- ・車による通勤や通学をやめた(5%)
- ・街を歩く観光客が増えた

事業効果アピール資料(3)

景観向上

- ◆ 歴史的な街並みに調和するデザインの舗装材や街路灯を採用した。
- ◆ 電線類の地中化により、良好な景観を創出した。
- ◆ 出土した石材を活用したベンチや、歴史案内看板などを備えたポケットパークを沿道に5箇所整備した。

①城下町松江と調和するデザインの歩道舗装や街路灯



※シンボルツリー:「なんじゃもんじゃ」

②街路灯について
松江城～米子橋は行灯を
思わせる乳白色の灯具
米子橋～くにびき道路は
現代風のクリアな灯具



③大手前通りにちなんだ
デザインの郵便ポスト



④一休みできるポケットパーク



苦労や工夫等アピール資料

連携・協働による まちづくり・みちづくり

- ◆ 地域住民、島根県、松江市の連携・協働により、みちづくり・まちづくりを進めた。
- ◆ 地域住民が参加して、沿道建物の高さ制限や用途地域の緩和変更、沿道地区のまちづくりについて話し合いを重ね、まちづくり計画を策定した。
- ◆ 街路の具体的なデザインや歴史資源の活用、沿道の魅力づくりについて、専門家の助言を受けながら、地域住民と行政が一体となって検討した。

(城山北公園線都市計画街路事業)

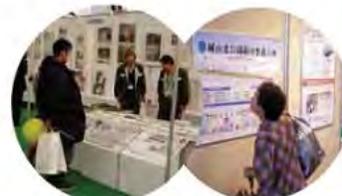
- 平成15年
- 大手前通りまちづくりを考える会 (各2回・全体会1回) 関係各町内代表
 - 大手前通りの歴史を調べる会
 - ① パネル展・模型展
- 平成16年
- 事業認可(1工区) 延長620m 幅員29m
 - 事業認可法定説明会(第1工区)
 - 計画説明会(1工区)(計4回)一般住民
 - ① がいろだより創刊
 - 移動相談所開所
 - 用地調査・建物調査(1工区)
 - ① 広告チラシ新聞折り込み(松江市内72,000部)
 - ① 完成模型展
 - 用地・補償説明会(1工区) 地権者・建物所有者など
 - 第1回ワークショップ
- 平成17年
- 第2回ワークショップ
 - ① 歩道モデル体験会 地元住民、島根県視覚障害者福祉協会など
 - ① 歩道モデル展示場イルミネーション
- 平成18年
- 大手前通りみちづくり委員会(計3回)
- 平成19年
- 大手前通りみちづくり委員会提言書提出
 - 大手前通りまちづくり計画都市計画決定 用途地域の変更・地区計画の導入
- 平成20年
- 松江城下町遺跡発掘調査現地説明会
 - 大手前通りみちづくり委員会提言書 検討結果報告会
 - 事業認可(2工区) 延長427.5m 幅員29m
- 平成21年
- 第1回大手前通りみちづくり協議会
 - 事業認可法定説明会(第2工区)
 - 用地・補償説明会(2工区) 地権者・建物所有者など
 - 第2回大手前通りみちづくり協議会
 - 大手前通りみちづくり協議会デザイン部会
 - 大手前通りみちづくり協議会水路活用部会
- 平成22年



大手前通りの歴史を調べる会
地元住民、学術経験者の参加により沿道地区の文化財や沿道の歴史について調べました。



大手前通りまちづくりを考える会
地元住民の代表の方の参加により、地域での身近な問題、街路事業に伴う課題、将来のまちづくり計画等を検討しました。



パネル展・模型展



みちづくりとまちづくりワークショップ
地元住民、大学生、商工・観光関係者、NPOなどの参加により、事業後の町並み、活性化のためのアイデアを検討しました。



歩道モデル体験会



大手前通りみちづくり委員会
地元関係者により歩行空間のデザイン検討を行い県・市に提言しました。



大手前通りみちづくり委員会提言書
検討結果報告会
委員会から提言について検討した結果を委員会メンバーに報告しました。



第1回大手前通りみちづくり協議会
舗装材について米子町の歩道予定地でデモンストラーションを行い歩道舗装材の選定を行いました。

苦労や工夫等アピール資料

歴史的資源を活かしたみちづくり

- ◆ 発掘調査により明らかになった城下町の様子や人々の暮らしぶりを後世に伝えるため、沿道8箇所歴史案内看板を設置した。
- ◆ まち歩きの仕掛けづくりとして、「歴史探索マップ」を作成、配布した。
- ◆ 出土した石材を活用したスツールや植栽柵を設置したほか、発掘された石組水路の石材に松江城の石垣と同様の刻印が刻まれていたことから、刻印の入った石を沿道に整備したポケットパークに展示した。



ポケットパークのスツールには発掘調査で出土した石材を使用



ポケットパークに松江城石垣の刻印のレプリカを展示



ポケットパークに「輪違紋」の刻印を展示



城下町松江を紹介する歴史案内看板

受賞歴・報道資料

第26回
(平成30年度)

しまね景観賞
屋外広告物・その他部門

優秀賞



屋外広告物・その他部門

大手前通りのサイン

松江市殿町～南田町



事業主体 島根県

デザイン 元 大手前通りみちづくり協議会

要 要 大手前通りみちづくり協議会は、大手前通り（城山北公園線）の整備に当たり、街路のデザイン等の検討を目的として地元町内会等の代表や専門家を中心となり、平成19年度に設立（現在は解散）された。
工事に伴う発掘調査で発見された遺構等について、後世に伝え、歴史文化資源として活用するため、大手前通りのポケットパーク等に歴史案内看板を設置して残すように意見が出された。その内容、デザイン等についてもこの協議会で決定された。
設置個数：歴史案内看板 計8基
完成年月：平成30年7月
今後の維持管理：松江市

松江城大手前と「くにびき道路」を結ぶ「大手前通り」。渋滞緩和や安心・安全な歩道の整備等を目指し、15年間に及ぶ歳月を経て2018年（平成30年）8月に完成した、全長約1キロメートル・幅員29メートルの広々とした道路である。この度受賞の「サイン」は、この通りの沿道全8カ所に設置された歴史案内看板である。

案内看板のデザインは和風とモダンなもの2通りがあるが、その形状・色合いはいずれもシンプルで落ち着いたものであり、「大手前通り」全体の抑制の効いた景観の中に違和感なく佇んでいる。案内看板には工事に伴う発掘調査で明らかとなった城下町松江の歴史が、写真や絵図とともに詳細な説明文により紹介されている。これらの設置は、整備計画の早い段階から地域住民を含めた協議会等において出されていた「歴史資源の活用」という提案に応えるものである。

現地を訪ねると、道行く人々が案内看板の前で足を止め、熱心に目を通して見受けられる。無電線化も行われてすっきりとお城が見える景色の中、この地の歴史に思いをはせるひと時は、松江への関心と親しみを一層深めるものといえよう。

（審査委員 八田典子）